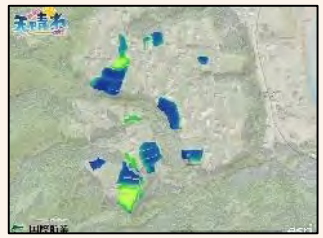


スマート農業の現場実装

- ・ R元年度から**衛星測位情報を用いた農機の自動化や衛星画像を活用した生育診断等の先端技術の農業現場での実証**を開始。現在、182地区で展開。
- ・ R4年度は農機等の効率利用による導入コスト低減に向けた産地ぐるみでの実証を実施。

【衛星リモートセンシング技術の実証事例】



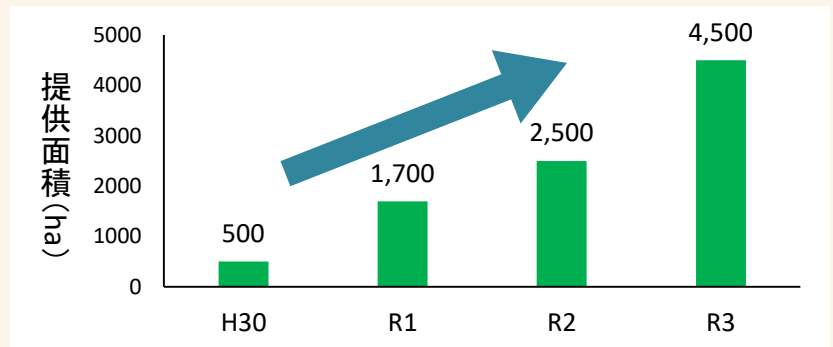
広範囲の生育診断

（農）東邦農園（静岡県島田市）

衛星画像解析により生育診断を行い、その結果を基に収穫や被覆作業などを適期に行うことで、高品質な茶の生産を実現

【衛星リモートセンシング技術の活用状況】

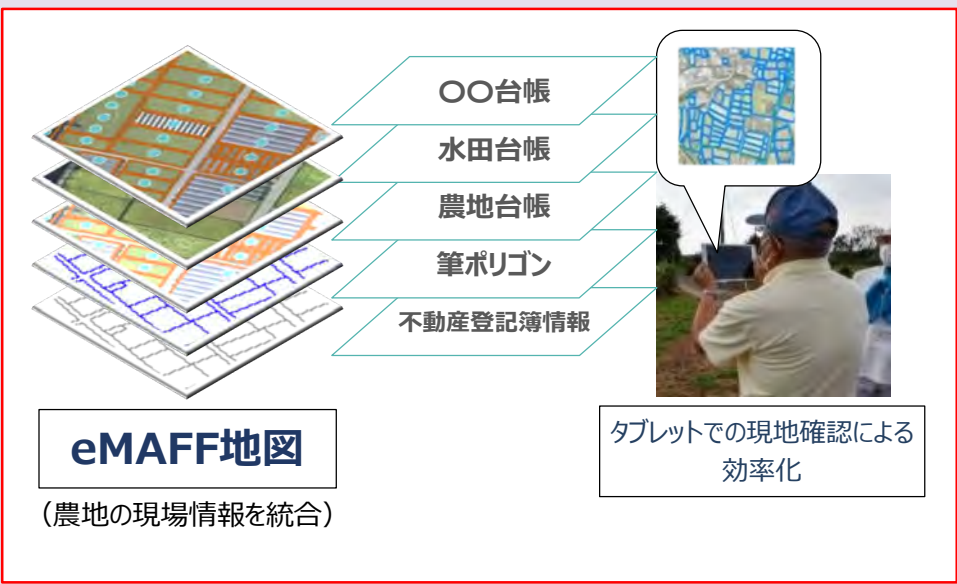
衛星リモートセンシングによる可変施肥マップ配信サービス（A社）の提供面積



※農林水産省による聞き取り

eMAFF地図の開発

- ・ 「農林水産省地理情報共通管理システム」（**eMAFF地図**）により、農地関係業務に係る**データ入力**の作業の**削減**、**現地確認**に要する時間の大幅な**削減等が可能**。
- ・ また将来的には、**衛星画像の活用**により、**補助金申請に係る現地確認等の更なる省力化**も視野。
- ・ R4年度中の運用開始を目指して開発中。



eMAFF地図
(農地の現場情報を統合)

タブレットでの現地確認による効率化

農林水産分野における衛星リモートセンシング技術の活用状況

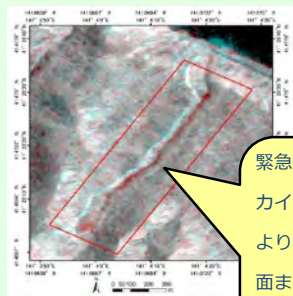
山地災害被害の把握

- JAXAの衛星『ALOS-2』の緊急観測による災害前後の衛星画像を解析し、**山地災害の発生規模を推定**。
- R3年度は梅雨前線豪雨や8月豪雨災害等の発生直後から、林野庁はJAXAに対し**計18回の緊急観測**の依頼を行い、JAXAにおいて**延べ16箇所の土砂移動箇所を特定**した。また、林野庁はこれらの結果を速やかに**被災した自治体にも情報提供**した。
- R4年度は**被害額の推定方法の検討など衛星画像のさらなる活用に向けた実証事業の実施を検討**。

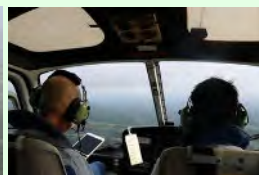
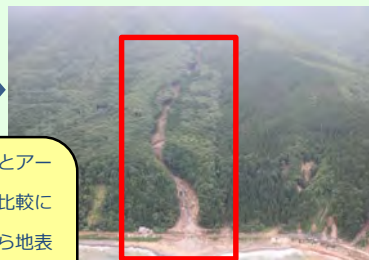
【事例】 観測日：2021年8月10日 場所：青森県風間浦村
(上部：国有林、下部：民有林)

ALOS-2画像

8月16日に上空から撮影した画像



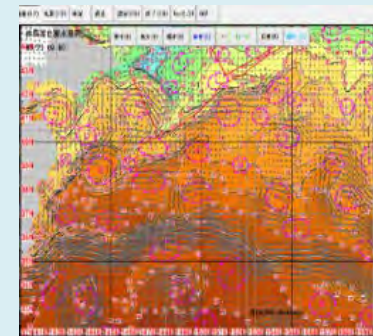
緊急観測画像とアーカイブ画像の比較により、衛星から地表面までの距離で土砂移動等の変化を表現（沈降は赤色、隆起は青色）。



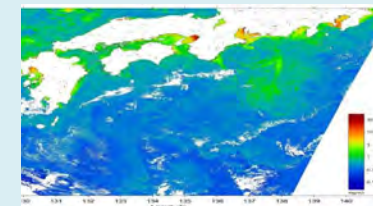
➤ 衛星データによる災害発生の概況把握により、効率的なヘリ調査が可能。（令和3年8月豪雨災害の調査状況）

沖合・遠洋漁船への漁海況情報の提供

- 水循環変動観測衛星（GCOM-W）や気候変動観測衛星（GCOM-C）を活用した**表面水温及び植物プランクトンの分布情報**に基づいて、**潮流や水温情報等を見える化**し、漁業者に提供。
- 水温、海流などの海の状況や、いづれでどのような魚が獲れるかといった**漁海況情報を収集・分析し提供**。
- R4年度は臨時・緊急的な情報発信に対応するため、**迅速で高度な解析が可能な海洋環境の解析システムの構築を検討**。



表面水温



クロロフィルa濃度
(植物プランクトンの分布)

